

# うるおい療法について①

## 痛くなく早く治る新しいキズの治療

湿潤療法とは、キズを消毒しない乾燥させないで治療する方法です。

キズに適度なうるおいを与えて治りやすい環境にすることにより、キズを早く治すことができます。

### ✓ 実際の治療例

1歳の男の子がアイロンにあって受傷しました。総合病院の形成外科で、消毒と軟膏とガーゼによる治療を2週間受けて、皮膚移植の手術をうけないと治らないといわれて心配になり当院を受診しました。当院で湿潤療法を行いました。6週間後には新しい皮膚が出来ました。皮膚移植の必要はありませんでした。キズによる関節の動きの制限（瘢痕拘縮）もありませんでした。



治療前



治療後

50歳女性の脱穀機の刃で左の親指の先端を切断してしまいました。従来の治療法では、骨を削って指を短くしてキズを縫うか、細い血管をつないで皮膚移植をする難しい手術をするしかありませんでした。湿潤療法を行い、5週間後には無くなった指の先端が再生されました。



治療前



治療後

# うるおい療法について②

## 湿潤療法でキズが早く治る理由

### ①キズを消毒しない理由

今までの治療では、キズのバイキンを殺して可能を防ぐためにキズを消毒していました。しかし、消毒薬はバイキンと共にキズの中の細胞も殺してしまうため、キズの治りを遅くしてしまいます。また、キズの中のバイキンは消毒して一時的に減ってもすぐに増殖して3時間後くらいには元の数に戻ってしまいます。つまり、消毒にはバイキンの数は減らして化膿を防ぐ効果はないのです。消毒は患者さんに痛みを与えて、かつキズの治りを遅くしているだけなので、うるおい療法では消毒をしません。

### ②キズを乾燥させない理由

今までの治療ではキズは乾燥させた方が早く治ると考えられていました。しかし、これは大きな誤りです。キズを治すためには適度なうるおいが必要です。乾燥している砂漠には植物が育たないのと同じように、乾燥しているとキズを治す細胞も育たないのです。キズから出てくる水(浸出液)にはキズを治す成分やバイキンをやっつける成分がたくさん含まれています。うるおい療法では、この浸出液を生かしてキズを乾燥させないようにして、キズを早く治します。

### ③痛くない理由

従来のキズの治療は痛みを我慢することが当たり前でした。消毒による痛み、キズの乾燥による痛み、ガーゼをはがすときの痛みなどです。うるおい療法では、消毒もガーゼも使用しないのでこれらの痛みがありません。

## 湿潤療法の方法

- ①キズを水道水で良く洗います。(痛みがあるときは麻酔をしてから洗います。)
- ②タオルなどでキズの周りの水分をふき取ってから、キズが乾かないようにガーゼの代わりに創傷被覆剤(ソウショウヒフクザイ)でキズを覆います。  
創傷被覆剤とは、キズにくっつかず、キズを乾燥させず、水分を適度に吸収するように作られたキズの治療専用の材料です。
- ③毎日1回、創傷被覆剤をはがして、キズの周りの皮膚を洗い、また創傷被覆剤を貼りなおします。
- ④キズの状態が落ち着いて、うるおい療法のやり方を十分に理解していただいた患者さんには、自宅で自分自身もしくは家族に処置してもらいます。創傷被覆材をはがして入浴してから、創傷被覆材を交換してもらいます。
- ⑤痛みが悪化した時は、化膿を起した可能性があるのですぐに受診してください。  
創傷被覆剤(それぞれ特徴がありキズの状態を見て使い分けています)

